

# LOSE UP!

## Z900RS CUSTOMS



5 6 7 エンジン/FIはノーマルだがラジエーターにはコアガードとサイドシュラウドを装着。エンジンハンガーは今回STRIKERアルミピレットエンジンハンガー(ヘッド側:1万2000円+税、シリンダー側:4万2000円+税)となった。そのシリンダー側には合わせて

STRIKERガードスライダーも装着される。排気系はストライカー・ストリートコンセプト・フルEX JMCA 4-1STDチタンをセラコート仕上げしたチタンブラックライン(25万円+税)。ステップは人気のSTRIKER STCコンセプトで、バー位置をより上げてサーキットにも向いたバージョンも開発予定

8 9 10 φ41mm倒立フォーク/リヤショックはスクーデリアオクムラMEチューニングで“動いてストローク感のある”仕様にセットアップ。ホイールはゲイルスピードTYPE-Eの3.50-17/5.50-17サイズ。アクスルシャフトは新製品のSTRIKERロゴ入りクロモリ(リヤ用もあり)。ブレーキは前後ともゲイルスピード・エラホレートキャリパー&サンスターディスクに。スイングアームはZ900RSのフレームに合わせた適度なしなりを持つGストライカーで今回レーシングアジャスタータイプ(オーダー時オプションで3万円+税、後引き/専用アクスルシャフト付属)に変更している

Z900RSは何かしてやろう、もっと好きな形になるだろう、乗って楽しくなるだろうという要素を秘めたモデルだ。そんな素性を生かした最新カスタム群を紹介しよう。



# STRIKER WORKS

ストライカーワークス

さらに進化するコンプリートデモ車

### 既存パーツの仕様追加も合わせて進化していく

Z900RSには早くから代表・新さんが何度も乗り込み、車体構成や乗り味を分析。その車体評価を経て各種パーツを製作してきたストライカーワークス/カーライズインターナショナル。19年からはそれらパーツを装着したコンプリートカスタムのSZ019

デモ車の最新仕様がこの姿だ。「元々は春の東京サイクルショー出展用に進めていたものでしたが、その中止後も製作が進んだパーツもあり、それらを改めて加えた状態です」(ストライカーワークス・店長/鈴木さん)と言うように、従来のブラック×グリーンボールからマットブラックベースのZ1Aパターンとなった外装以上の変化が各部に見て取れる。



TIRE: PIRELLI DIABLO SUPERCORSA [F]120/70ZR17 [R]180/55ZR17



1 2 3 4 Z900RSに適した自然なフロント荷重をかけられ、垂れ角(0/5度調整可能でハンドル位置も2段の計4ポジション)やコーナリング時に肘が自然になるような幅まで吟味したGストライカー・セパレートハンドルキット+ピレットアンダーブラケットは引き続き

きこの車両の中核。フロントマスターやクラッチホルダーは今回ゲイルスピードに変更。ボルトオンのシングルシートも新装備でセパハンとの親和性を高めた。MotoGPウインターテスト仕様とZ1Aのパターンを掛け合わせたマットカラーはTMガレージによる

要素をプラスしている。これらのパーツは従来通りに個別でも買えるし、また同仕様でSZ020としてのパッケージ(オプション含む)でも製作依頼が可能。その上で新規パーツは発案・開発進行中で、ヘッドライトもステイも造形が進み、ステップキットもポジションの異なるものが相上り上っている。今後も自社の提案とユーザー要望とで進んでいくスト